

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	豊田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				17	17	7	
	電気・電子システム工学科				18	18	7	
	情報工学科				15	15	7	
	環境都市工学科				16	16	7	
	建築学科				26	26	7	
	電子機械工学専攻 (機械工学)			8	8	16	7	
	電子機械工学専攻 (電気電子工学)				6	14	7	
	建設工学専攻 (土木工学)				12	20	7	
	建設工学専攻 (建築学)				8	16	7	
	情報科学専攻 (情報工学)				10	18	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=23&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	豊田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20220401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020年4月1日～ 2024年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～ 2024年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	豊田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各教員は、担当科目について、授業方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)(案)を作成する。</p> <p>各教員が作成した授業計画書(シラバス)(案)について、各学科教育改善推進室員が科目概要、授業内容、達成度目標、評価割合が適切かどうかを確認し、担当教務主事補が学則・教務規定に合致しているか確認する。</p> <p>作成した授業計画書(シラバス)は年度当初にWeb上で公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=23&lang=ja
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学生の学習結果に基づき、予め設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。</p> <p>なお、素点及び成績報告書は教員から学生課教務係に提出され、管理している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>評価を数量化 (A=4、B=3、C=2、D=1、F=0、N=0) した値に単位数を乗じた数値を加算し、それを履修不認定のNの科目も加えた履修申請総単位数で除した値をGPAとしている。</p> <p>課題研究の合格による評定は、GPA計算に含めない。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧 (30 ページ) に記載 https://www.toyota-ct.ac.jp/student/student_support/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	豊田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R2jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR2.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r4-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.toyota-ct.ac.jp/about/gaibu_hyouka

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.toyota-ct.ac.jp/about/gaibu_hyouka

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)
(概要) 教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) 卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」を養う教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。

学部等名 電気・電子システム工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)
(概要) 教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) 卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」を養う教育を実施する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要) 教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」を養う教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 環境都市工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要) 教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横</p>

断的能力」を養う教育を実施する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

学部等名 建築学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要) 教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長が卒業を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」を養う教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

学部等名 電子機械工学専攻 (機械工学)
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要) 教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要) ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたのものには、修了判定会議の議を経て、校長が修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>

<p>(概要)</p> <p>修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 電子機械工学専攻 (電気・電子システム工学)</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたものには、修了判定会議の議を経て、校長が修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 情報科学専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたものには、修了判定会議の議を経て、校長が修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>

<p>(概要)</p> <p>修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 建設工学専攻（土木工学）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたものには、修了判定会議の議を経て、校長が修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 建設工学専攻（建築学）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>
<p>(概要)</p> <p>ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了を認定する。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたものには、修了判定会議の議を経て、校長が修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)</p>

(概要) 修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.toyota-ct.ac.jp/about/kyouiku_mokuhyou/)
(概要) 社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
一般学科	—	7人	7人	6人	0人	0人	20人
機械工学科	—	3人	4人	1人	1人	0人	9人
電気・電子システム 工学科	—	4人	3人	1人	1人	0人	9人
情報工学科	—	3人	4人	0人	1人	0人	8人
環境都市工学科	—	3人	3人	2人	1人	0人	9人
建築学科	—	5人	3人	1人	0人	1人	10人
国際交流センター	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		33人				33人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	231人	115.5%	若干名	1人
電気・電子システム工学科	40人	41人	102.5%	200人	226人	113.0%	若干名	0人
情報工学科	40人	42人	105.0%	200人	229人	114.5%	若干名	0人
環境都市工学科	40人	43人	107.5%	200人	228人	114.0%	若干名	0人
建築学科	40人	42人	105.0%	200人	220人	110.0%	若干名	3人
合計	200人	209人	104.5%	1000人	1134人	113.4%	若干名	4人
電子機械工学専攻	8人	10人	125.0%	16人	20人	125.0%	無	0人
建設工学専攻	8人	7人	87.5%	16人	13人	81.3%	無	0人
情報科学専攻	4人	7人	175.0%	8人	11人	137.5%	無	0人
合計	20人	24人	120.0%	40人	44人	110.0%	無	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	37人 (100%)	15人 (40.5%)	21人 (56.8%)	1人 (2.7%)
電気・電子システム工学科	46人 (100%)	33人 (71.7%)	12人 (26.1%)	1人 (2.2%)
情報工学科	37人 (100%)	21人 (56.8%)	14人 (37.8%)	2人 (5.4%)
環境都市工学科	44人 (100%)	19人 (43.2%)	25人 (56.8%)	0人 (0%)
建築学科	30人 (100%)	9人 (30.0%)	20人 (66.7%)	1人 (3.3%)
合計	194人 (100%)	97人 (50.0%)	92人 (47.4%)	5人 (2.6%)
電子機械工学専攻	9人 (100%)	3人 (33.3%)	6人 (66.7%)	0人 (0%)
建設工学専攻	8人 (100%)	2人 (25.0%)	6人 (75.0%)	0人 (0%)
情報科学専攻	5人 (100%)	1人 (20.0%)	4人 (80.0%)	0人 (0%)
合計	22人 (100%)	6人 (27.3%)	16人 (72.7%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
電気・電子シ ステム工学科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
情報工学科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
環境都市工学 科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
建築学科	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
電子機械工学 専攻	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
建設工学専攻	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
情報科学専攻	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各教員は、担当科目について、授業方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）（案）を作成する。</p> <p>各教員が作成した授業計画書（シラバス）（案）について、各学科教育改善推進室員が科目概要、授業内容、達成度目標、評価割合が適切かどうかを確認し、担当教務主事補が学則・教務規定に合致しているか確認する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各学生の学習成果に基づき、予め設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。				
成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定し、卒業（修了）認定の要件を満たした者には、卒業（修了）判定会議の議を経て、校長が卒業（修了）を認定する。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気・電子システム工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	環境都市工学科	167 単位	有・無	単位
	建築学科	167 単位	有・無	単位
	電子機械工学専攻	62 単位	有・無	単位
	建設工学専攻	62 単位	有・無	単位
	情報科学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	9,950 ～ 18,350 円	学生会費 8,400 円 日本スポーツ振興センタ ー災害共済給付 1,550 円 以下, 入寮者のみ 寄宿料 8,400 円
	電気・電子シ ステム工学科				
	情報工学科				
	環境都市工学 科				
	建築学科				
	電子機械工学 専攻	234,600 円	84,600 円	1,550 円	日本スポーツ振興センタ ー災害共済給付 1,550 円
	建設工学専攻				
	情報科学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 入学料免除制度、入学料徴収猶予制度、授業料免除制度及び日本学生支援機構奨学金制度により、学生の修学に係る支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育支援室を置き、各クラスの指導教員(担任)、各教科を担当する教員、クラブ活動の顧問教員、事務職員等が連携し、主にホームルームを中心に行う指導について、経年的な学生の動向等を分析しながら、企画や情報提供を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生サポート室を置き、精神的な問題、生活や学習に関する個人的な問題を解決するための援助をしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.toyota-ct.ac.jp/about/disclosure/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G123110107131
学校名	豊田工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		42人	38人	-
内 訳	第Ⅰ区分	20人	19人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				44人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。